



新岡山市市民病院だより

vol.3

Kitanagase Wind  
2015.1

# 北長瀬の風

特集

診療科を紹介します! [後編]

- 地域医療連携室
- 肝疾患センター
- リウマチセンター
- 糖尿病センター
- 放射線科
- 臨床検査科

お知らせ

新病院建設工事NEWS

平成27年5月7日(予定) 北長瀬に  
新岡山市立市民病院が開院!



# 地域医療連携室

関連  
診療部

「患者さんの幸せな人生のために」

いつでも相談できる地域医療連携室は強い味方。

## 地域医療連携室が担う地域と病院をつなぐ役目とは？

まず、患者さんやご家族、地域の方が相談できる場所としての役割です。医療や福祉制度などのさまざまなご相談をお聴きし、看護師と医療ソーシャルワーカーがサポートさせていただいております。また、地域の医療機関との窓口として、当院と地域医療をつなぐ役割も担っています。かかりつけ医の先生からの受診予約や救急受診についてご相談をお受けしており、必要に応じて地域医療連携室の看護師が医療相談を直接受けることも多くあります。他にも、当院とかかりつけ医がもつ機能をお互いに把握できるようアンケートにより情報を収集し発信したり、地域の医療従事者を対象にした研修会を開催したりしています。こうした地域の医療機関とのつながりを大切にして、地域医療の発展に貢献することが、患者さんへの支援にも活かされています。

## 連携の強さが退院支援でも力を発揮しているとか。

当院の地域医療連携室は、地域の医療機関からの紹介患者さんを受け入れる「前方支援」と、入院患者さんの退院支援を行う「後方支援」を、ひとつの部屋に置いています。患者さんの入院時、病棟看護師が退院支援スクリーニングシートによって、転院の必要な場合や在宅復帰するにあたり支援が必要な患者さんについては、地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーと一緒に支援を開始します。退院支援はシステム化しており、院内外を問わず、多職種協働で行っています。できるだけ在宅に復帰できるよう、患者さんやご家族としっかりお話をし、地域のかかりつけ医へとつなげています。医療・

介護が必要な状態で退院される場合でも、訪問看護師、訪問薬剤師、通所リハビリ、デイサービス等を利用することで、在宅に復帰して困らないよう支援します。また、すぐに在宅での生活が難しい場合にも、地域に戻れるよう転院を含めて支援します。介護保険の申請から医療費の相談等、新病院内に新しく開設される「岡山市地域ケア総合推進センター」と連携し、介護・福祉にもつないでいく体制を整えています。

## かかりつけ医をもちましょう！

**二人主治医制** かかりつけ医の先生と市民病院が力を合わせて診察させていただきます

かかりつけ医とは「病気のときに普段からかかっている先生」のことです



## 困った時にいつでも相談できると聞きました。

新病院では、医療ソーシャルワーカーの増員があり、より相談体制が充実します。場所も北長瀬へと移りますが、地域の方と地域のための病院として、地域医療連携室を通じて信頼関係を築いていけたらと思っています。患者さんの人生の中で本当に大変な時ですから、これからの道筋を一緒に考え、患者さんが思う幸せな人生を歩めるようにお手伝いします。医師や看護師に言いにくいことでも、私たちに相談していただけたら院内でつないでいきますので、何かお困りのことがあったら地域医療連携室にご相談ください。

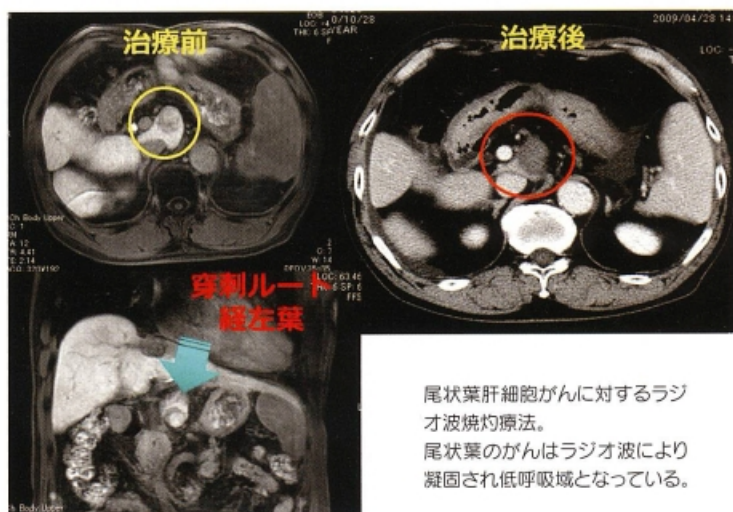
〒700-8557 岡山市北区天瀬6番10号  
岡山市立市民病院 地域医療連携室  
TEL 086-225-3171(代表) 086-225-8055(直通)  
FAX 086-225-3537 E-mail shimin\_chiikiren@city.okayama.jp

地域医療連携室へのお問い合わせ先

## 肝臓がんの原因・治療方法は大きく変化。 予備軍の方は、年に1回は画像診断を。

市民病院は「ラジオ波焼灼療法」の症例数が多いと聞きました。

ラジオ波焼灼療法は、皮膚の上から細い針状の電極を刺してラジオ波の熱でがん細胞を固めて治療する方法です。体を切らない治療法なので患者さんへの負担が軽く、市民病院では2500例の実績があります。なかでも、肝臓の最も深い位置にある尾状葉へのラジオ波焼灼療法は100例ほどあり、これは日本でも3本の指に入る症例数になります。肝疾患センターでは「ラジオ波で治療できないところをなくそう!」という目標を掲げて肝臓がんの治療に日々取り組んでいます。



尾状葉肝細胞がんに対するラジオ波焼灼療法。  
尾状葉のがんはラジオ波により凝固され低呼吸域となっている。

進行している肝臓がんを治療する「肝動脈塞栓療法」とは?

進行したがんに対しては、肝動脈の血管にカテーテルを通して抗がん剤を投与した後、がん細胞に栄養を送る血液の流れを止めてがん細胞を壊死させる肝動脈塞栓療法も行っています。新病院では、血管造影装置とCT装置が一体化した最新の撮影装置を導入するので、このカテーテルを使った治療は確実性を増し、さらに今までなら見つからなかったより早期のがんも発見できるようになります。診断・治療の質をさらに高めていくことができると期待しています。

肝臓がんに進行するC型肝炎やB型肝炎は、もうすぐ治る病気になるそうですね。

C型肝炎はインターフェロンや新しい飲み薬によって治療できる病気になっています。2015年には多くの新薬が登場する予定で、完治できる病気として先が見えてきました。B型肝炎も抗ウイルス薬が進歩し、薬のコントロールによって発がんや肝硬変を抑えられるようになっていきます。そのかわりに増えているのが「アルコール性肝障害」と「非アルコール性脂肪肝炎」です。どちらも見つかった時にはすでにがんに進行しているケースが多く、自覚症状がないため注意が必要です。



狩山和也センター長

非アルコール性脂肪肝炎とは、  
お酒を飲まない人がなる病気ですか?

非アルコール性脂肪肝炎は、飲酒習慣のない人に起こる肝炎のことで、肝臓に中性脂肪が蓄積され脂肪肝が進むことで起こります。気づかぬうちに肝硬変、肝臓がんへと進んでいくので非常に危険な病気です。健診でメタボと診断された方だけでなく、痩せていても肝機能の数値が悪かったり、血小板の数値が低かったりした方で詳しい検査が必要とされる場合は、遠慮なく市民病院にお問い合わせください。見落としが多い病気なので、半年に1回は画像診断を受けることをお勧めします。

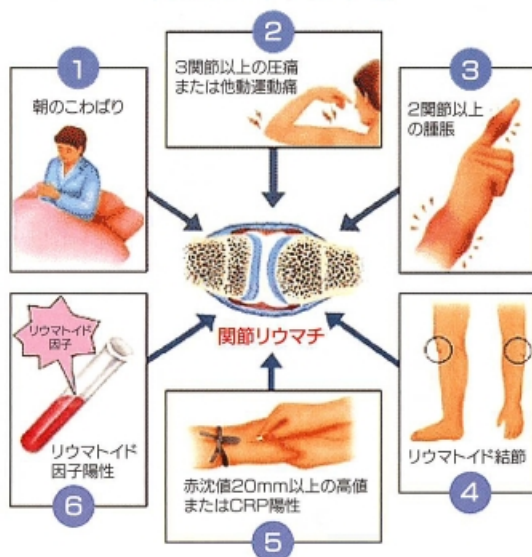
## 最新の薬物療法と早期発見で治る病気に。 患者さんの一生を病院全体でサポートします。

♡ リウマチ治療に対して歴史がある病院だそうですね。

40年以上前から専門外来を設けてリウマチ治療に取り組んできた歴史があります。現在は、さらに充実した治療に向けて整形外科と内科が垣根を越え、リハビリスタッフや栄養士、薬剤師、検査技師なども連携して治療にあたっており、患者さんの生活の質の向上を目指して治療の4本柱（生活習慣を整える基礎療法、薬物療法、手術療法、リハビリテーション）を充実させるべく努力して

います。手術が必要な場合も外来から入院まで切れ目のない治療が可能となっています。

### 早期関節リウマチの診断基準 (日本リウマチ学会による)



### ♡ 飛躍的に進歩した現在のリウマチ治療とはどんなものですか？

免疫異常によって関節に炎症が起こり、進行すると骨が変形してしまうのが関節リウマチです。今までは進行を遅らせて痛みをやわらげる治療しかできなかったのですが、免疫抑制剤やバイオ製剤の開発によって骨や関節の変形の進行を抑制できるようになりました。ただし、良い薬には副作用もあります。内科と共に患者さんの状態をしっかりと診て、副作用が小さいうちに摘み取ることはもちろん、ERとも連携して副作用に対応できる体制を整えています。

### ♡ リウマチ教室やリウマチケア入院を行っているのはなぜですか？

発病したばかりの患者さんは薬物療法で関節の変形を予防することが治療の目的になりますが、関節の変形が進んだ患者さんは、生活の質を高めることが目標になります。病気のことをよく知り、自分に合った治療や目標を見つけることがリウマチ治療では大切です。そのために、リウマチ治療に対して正しい知識、最新治療を知っていただくためにリウマチ教室を毎月開催しています。また適切な治療を行うために、生活習慣病などをチェックするリウマチケア入院も始めています。

### ♡ リウマチ・パートナーシップを推進している理由は？

かかりつけ医の方とパートナーシップを結ぶことによって患者さんの投薬・検査をお任せする一方、難しいリウマチの診断や治療方針の決定、救急対応が必要な場合は市民病院を頼っていただける関係を作りたいと考えています。投薬はできないが予防接種などを行うホームドクターとしてのパートナーなら、ということでも構いません。症状が落ち着いた患者さんを“二人主治医制”でサポートすることで、安心して治療生活が送れる環境を作りたいと思っています。



臼井正明センター長

予防が大切、治療すれば怖くない。  
地域全体の糖尿病合併症改善を目指して。

## ❖ チーム医療に力を入れているのはなぜですか？

糖尿病は進行すると合併症を発症する恐ろしい病気です。たとえば三大合併症として網膜症による視力低下、悪化すれば透析が必要になる腎障害、足の痺れや神経障害があります。その他にも、血糖が高いことにより動脈硬化が進み心筋梗塞や脳梗塞、足の壊そによる切断や消化器系のがん、歯周病を含む感染症、アルツハイマー型認知症になる可能性が増加するなど様々です。当センターでは総合病院としての利点を活かし、内科、眼科、リハビリテーション科、薬剤部、栄養科、臨床検査技師、看護師、臨床心理士など多職種で総合的な診療を行うとともに、地域の開業医とも連携し糖尿病治療と合併症予防に取り組んでいます。



安藤晋一郎センター長

## ❖ 手術の結果も血糖値により違いが出るそうですね。

外科系の手術前後における血糖コントロールも担当しています。日頃の血糖コントロールも大切ですが、手術前後は特に重要です。コントロールをするのとしないのとでは死亡率が約3割変わると言われています。また手術後の傷の回復にも大きく差が出ます。傷口の回復が遅いとそこから感染症にかかる可能性も高まります。当院では手術が何事もなくうまくいくように、ここでもチーム医療が力を発揮しています。

## ❖ ケア外来や臨床心理士による糖尿病教室の効果も大きいとか。

まずケア外来ですが、医師、看護師、栄養士がチームとなり、透析予防やフットケア、注射指導など



糖尿病食は健康食です！

総合的に患者さんのケアをおこなっています。妊娠糖尿病は産婦人科と同時に受診できるよう妊娠糖尿病外来を用意しています。また臨床心理士による面接や糖尿病教室も開催しています。医療による治療だけでなく、根底にあるストレスによる過食や喫煙などに対し心理的にアプローチすることで予防につなげています。近年、臨床心理士の関与が生み出す効果が認められ評価されていますが、臨床心理士が糖尿病チームに参加している施設はまだ少ないため、その育成にも取り組んでいます。

## ❖ 症状がないからと治療していない方が多いと聞きました。

たとえば40代では糖尿病と診断されたにもかかわらず約半数が治療していないという統計がでています。糖尿病は高齢化に伴い増加傾向にある上、遺伝する病気です。しかし治療することで合併症を防げる治療効果の高い病気でもあります。地域や企業と連携し糖尿病の知識を広め、予防を呼びかけ改善することが市民病院のこれからの役目です。症状がないからと放置せず周囲の方にも声をかけて受診していただければと思います。

# 放射線科

診療科

中四国・九州では初となる最上級CTの導入など、  
ほとんどすべての検査機器を一新。

## ● 中四国・九州で初導入される最新CTのメリットは？

CTとはコンピュータ断層撮影法のことです。X線を照射することで身体の断面を画像化し、病気発見につなげる機器です。最新の最上級機種を導入することで、より短時間で高精度の画像撮影や今までできなかった物質の成分分析（例／尿管結石の成分分析など）ができるようになります。検査



藤下好弘診療放射線技師長

の質が向上することはもちろんですが、じっとしていることが苦手な子どもや意識のない方、さらには心臓検査に対してよりスピーディーに撮影でき、しかも被ばく線量を抑えるというメリットがあります。

## ● 負担が少なく、より便利な体制が整うんですね。

MRIについても最新の最上級機種を導入することで、音は70%軽減。よりワイドになって体の大きな方や閉所恐怖症の方も安心して検査を受けていただけるようになります。また、最新の一般撮影ポータブル機器での検査結果は、2～3秒でポータブル機器の手元にあるパソコンにて画像が確認できるので、特にER（救急室）では大きな機動力を発揮するものと思われます。また、かかりつけ医の方に向けてはネットでの予約システムを導入します。早期診断に向けて技術を高めながら、各所との協力関係を築くことにも取り組んでいきます。

高い技術と専門性を持った技師が集結。  
正確・迅速に結果が出せるように努めています。

## ● 技術と専門性の高さは大学病院に匹敵するほどだとか。

30名の検査技師が24時間体制で検査業務を行っています。認定資格保持者としては、細胞検査士2名、認定血液検査技師1名、認定輸血検査技師2名、二級臨床検査士（血液学）1名、超音波検査士は循環器と消化器で各4名が在籍。それぞれの分野で高い技術と専門性を発揮しています。市民病院では血液疾患の患者さんが多く、輸血も多いので血液検査や輸血検査に関してレベルが高く、また肝臓の生理検査やエコーによる腹部超音波検査・頸動脈検査でも高い技術を誇っています。



奥村仙一郎臨床検査技師長

## ● 特に定評のあるフローサイトメトリー検査とは？

細胞の表面にある抗原を解析するフローサイトメーターを導入して、白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患の分類や移植に必要な造血細胞の検査を行い、正確な診断・治療に役立てています。新病院では、血球計測装置や生化学分析装置、エコーなどの検査装置を増やして、より多くの検査が行える体制を整えていきますので、患者さんの待ち時間も減ることと思います。私たち技師もさらにレベルアップして、正確かつ迅速に検査結果が出せるように努めていきます。

# 臨床検査科

診療科

# 新病院建設工事NEWS



完成間近、工事は終盤です

平成27年  
5月7日  
開院  
(予定)

工事現場もいよいよ大詰めを迎え、職人さんであふれています。低層階はもう内装の仕上げに入っており、日に日に様相が変化しています。上層階(病棟)は、建物外側の病室から内側の廊下に向かって仕上げ作業を進めています。もうすぐ外部足場も外れ、新病院が新しい北長瀬のランドマークとしてデビューします。



病院遠景

東側から見える病院です。岡山ドームのあたりからも、一目でわかるようになりました。



病院全景

東南の角からあおりで撮影してみました。近くで見ると、改めてその大きさに圧倒されます。



病院ロゴ

東側病棟の外壁に法人シンボルマークとともに「岡山市立市民病院」の外壁サインが完成しました。開院後、夜間は白色に光り輝きます。



4階 医局

新病院の医局はワンフロアで風通しのいい造りになっています。



3階 検査室

ほぼ完成に近づいています。広い！



3階 HCU

集中治療部門ももう少しで完成です。3階の東南に位置し、明るく清潔なイメージです。



3階 リハビリテーション

ここも広～いワンフロア。2月からはいろんなリハビリ機器も入ってきます。



2階 外来診察室、待合

南側に面し、とても明るい！診察案内をするデジタルサイネージも導入します。



1階 ER診察室

1階西側にあるERのウォークイン患者さんの診察室です。

新病院  
建設に関する  
お問い合わせ

## 新病院整備運営課

〒700-0833 岡山市北区天瀬2番22号 岡山市立市民病院 別館2号館  
TEL:086-234-7120(携帯:080-6343-1119) FAX:086-227-2085

メール:shinbyouinseibiunei@city.okayama.jp

http://www.city.okayama.jp/byoin/simin2001/newhosp/shincyoku/shincyokunews.html

工事の  
進捗状況が  
分かります

# ACCESS MAP 新市民病院までのアクセス



- JR** 山陽本線で岡山駅より北長瀬駅まで約4分
- バス** 岡山駅より北長瀬駅前まで約15分
- 岡電バス: 平田・北長瀬行き / 東花房行き / 中庄行き
  - 中鉄バス: 北長瀬駅前・中庄行き
- 車**
- 岡山駅から約4km、約10分
  - 山陽自動車道岡山ICから約8km、約20分

**新住所** 岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号

**ホームページ** 岡山市立市民病院  
[http://www.city.okayama.jp/byoin/shimin\\_index.htm](http://www.city.okayama.jp/byoin/shimin_index.htm)  
 地方独立行政法人 岡山市立総合医療センター  
<http://okayama-gmc.or.jp/>



次号 vol.4 は平成27年2月下旬発行予定です

**特集 新病院建物探検** (予定) 診療科・関連センター紹介 (予定) ● 地域ケア総合センター ● 薬剤部 ● IVRセンター ● 小児科

## 日通が豊富な実績とノウハウで「岡山市民病院移転」を全面サポートします。



日本通運の病院移転は、長い歴史と多くの実績によって培われてきました。医療機関関係者様との密接な連携により、患者様の安心を第一として、高度で、信頼のおける引越サービスを実現します。



With Your Life

〒700-0973 岡山県岡山市北区下中野460 日本通運株式会社 岡山支店 引越・美術品センター  
 TEL 086-242-0202 FAX 086-241-6270 <http://www.nittsu.co.jp>